

(6) 北陸



北陸地域では、景気は極めて急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

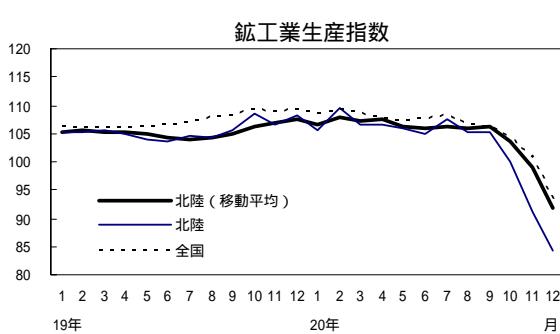
前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年11月)	今回(平成21年2月)	
景況判断	弱含み	極めて急速に悪化	
鉱工業生産	やや弱含み	極めて大幅に減少	
個人消費	弱含み	緩やかに減少	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	
雇用情勢	やや悪化しつつある	極めて急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。

一般機械は、土木建設機械や半導体製造装置が、世界経済の減速に伴う国内外からの受注減により、大幅に減少している。電子部品・デバイスは、電子部品が携帯電話の需要減等により減少したことや、半導体素子・集積回路が減少したことから、極めて大幅に減少している。化学は、医薬品が全般的に好調であるものの、前期の反動減もあり、減少している。金属製品は、建築着工の低迷によりビル用アルミサッシ等が減少したことから、減少している。繊維は、化学合成繊維織物を中心に、減少している。



	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)			
		生産	出荷	在庫	
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	16.2	7.6	17.2	-	-
電子部品・デバイス	15.8	0.4	31.8	-	-
化学	14.5	13.5	7.3	-	-
金属製品	9.2	1.8	3.9	-	-
繊維	8.5	6.8	3.1	-	-
鉱工業	100.0	0.3	13.4	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 10~12月期は速報値。

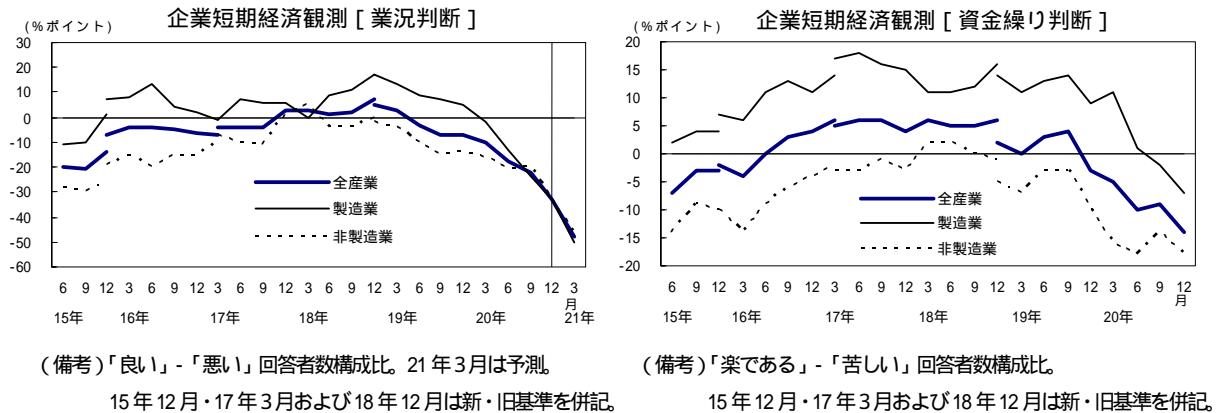
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 17年 = 100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。

2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

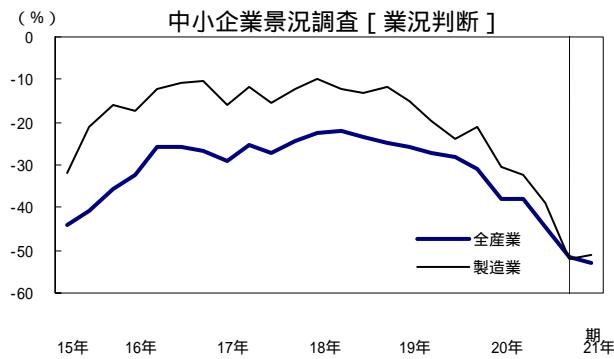
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。21年期は見通し。
中部地区。

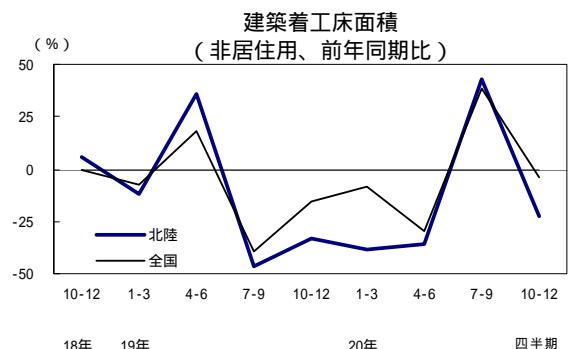
景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「携帯電話やパソコンの分野では、輸出が全く振るわないため、電子部品の新規受注が入ってこない(電気機械器具製造業)など、「悪くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

	企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]	
	(前年度比、%)	(前年度比、%)
全産業	19年度実績 7.8	20年度目標 18.2(7.0)
製造業	8.9	16.5(11.6)
非製造業	5.5	22.1(7.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

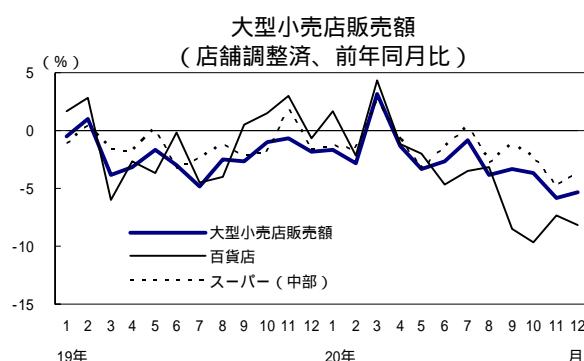
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、気温がやや高めに推移したことから秋冬物の衣料品が振るわず、高額雑貨も低調であったことから、前年を下回った。11月は、物産展等により飲食料品に動きがあったものの、衣料品や高級雑貨が低調であったことから、前年を下回った。12月は、円高に伴う値下げやセールの前倒し等を行ったものの、消費者の購買意欲の低下から、衣料品を中心とした全般的な低調感が見られた。なお、前年に一部店舗の増床効果があったことから、期を通じて反動減が含まれる。

スーパーは、飲食料品は堅調に推移したものの、気温がやや高めに推移したこと等から衣料品が振るわず、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「携帯電話の買換え販売量は3か月前に比べ2割減少している。故障した場合も買換えでなく修理するケースが多くなり、電池の買換えも非常に増えている(通信会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で「年明けからの来客数、客单価が大幅にダウンした。工場などの大幅な休日増加に伴い、通勤時に立ち寄る客が減少したためである。また、必需品なども特売品しか買ってもらえない、売上は前年比6%減、来客数は同7%減となっている(コンビニ)」など、「悪くなっている」とする回答もみられた。



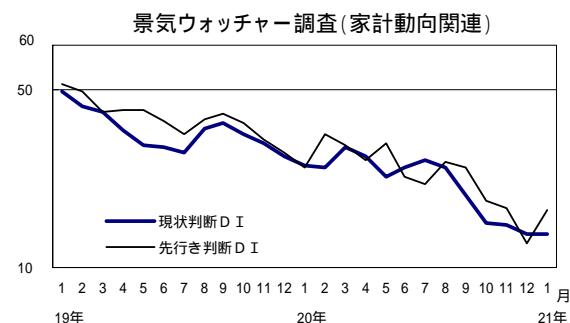
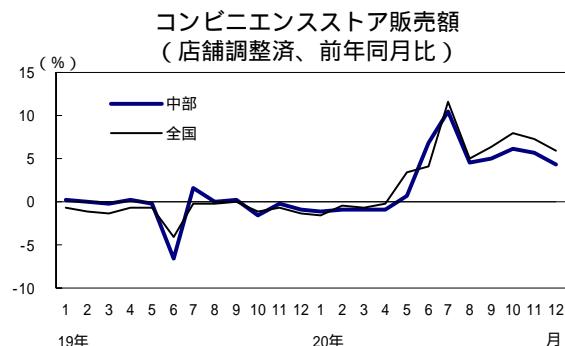
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.6	2.5	2.6	5.0
百貨店	1.4	2.6	4.9	8.3
スーパー	0.3	1.8	1.2	3.6
コンビニ	1.0	2.2	6.7	5.4
景気ウォッチャー	34.1	32.6	30.9	18.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部圏地区。

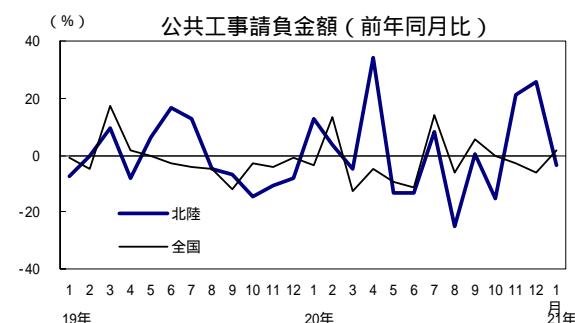
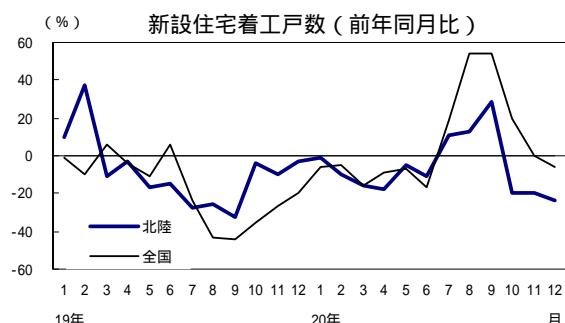
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

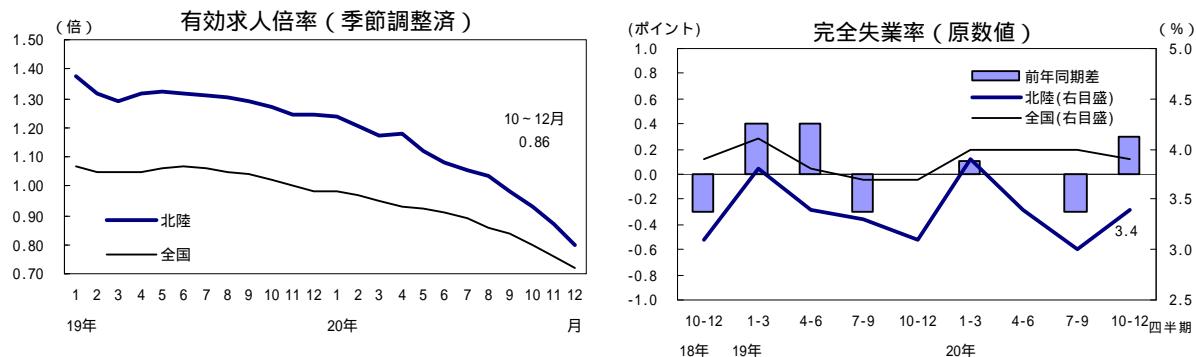


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

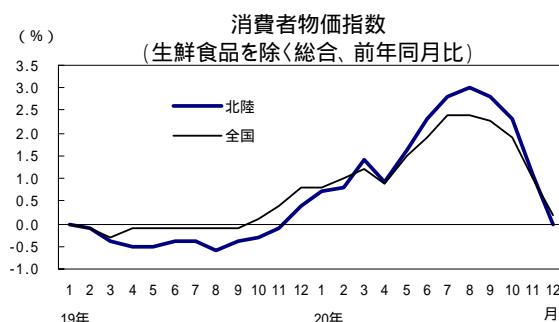
「派遣労働者など非正規労働者からの相談が本格化している。派遣契約の中途解除や雇止めで離職した求職者は150人を超え、住宅や融資の相談も増加している（職業安定所）」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は大幅に増加している。
1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数 (前年比)	103 33.8	92 10.7	109 53.5	133 47.8	43 59.3
負債総額 (前年比)	502 177.6	316 3.7	816 334.4	334 27.3	215 164.2



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 円高の影響や中国・米国などの大幅な需要減少により、輸出関連製造業に急激な落ち込みが見られる。また、設備投資の冷え込みから、工作機械などで落ち込みが見られる（税理士）

<先行き>

- 税制改正などにより、2、3月の最大需要期に買い控えが起こり、4、5月にずれ込む可能性がある。しかし、自動車への購買意欲が高まるような状況ではない（乗用車販売店）

景気ウォッチャー調査（合計）

